

富山縣護國神社の文章は、「**歴史的仮名遣ひ**」を使用してをります。

僧契沖ケイシュウを始め多くの國学者等が永い年月をかけて積み上げ、森鷗外・芥川龍之介・山田孝雄博士ヨシヒ（富山市名誉市民）等の努力によつて、日本語標記の基準とされてきた仮名遣ひを、敗戦といふ混乱期に「現代仮名遣い」に変へられてしまひました。

どこの國でも文化の核は、その民族が育ててきた**《言葉》**を中心にしてゐます。日本語の伝統を守る心は、日本の美風を守る心につながるものであります。

戦後、GHQの占領政策などにより、ほとんど検討しないままに、文法的にも欠陥の多い「現代仮名遣い」に変へてしまつたことは、**《國語の破壊》**を示すものであり、とても悲しむべきことであります。

明治以降の文学作品を「古典」としないためにも、「**歴史的仮名遣ひ**」を使用いたしませう。